「好き」の力を持つこと

　私はカモミール担任から年長担任まで、すべての学年を経験してきた中で子どもたちから多くのことを学んできました。
子どもは「好き」「やってみたい」と思うことを見つけると、一直線に取り組もうとします。
今回は年長担任をしていた頃のエピソード＝「好き」という気持ちの大切さについて紹介します。
当時は「どれだけ頑丈で綺麗な泥団子を作れるか」という遊びが流行っていました。
一生懸命作った泥団子を滑り台から転がし、崩れることなく最後まで転がると、みんな大喜び！
そんな友達の姿を見て泥団子作りに興味を持ち、夢中になって毎日作っていた男の子がいました。
見よう見まねで作ったり、友達に聞いたりしながら挑戦していましたが、なかなか上手くいかず、すぐに壊れてしまう…
その日は泥だらけの手を投げ出し、ぽろぽろと涙をこぼしていました。
「悲しくて、どうしてもやりたくないなら、やらなくてもいいよ。でも悔しい気持ち、まだやってみたいという気持ちがあるなら、最後までやってみよう」と声をかけると、「お部屋にある絵本を見て、もう一回やる」と話してくれました。
室内に戻ってからは目の色が変わり、真剣なまなざしで絵本をじっくりと見つめていました。
そして２～３日後、ついに壊れない、綺麗なまん丸の泥団子が完成しました！
これは１週間ほどの出来事でしたが、その子の背中がとても大きくなったように感じました。
　子どもは毎日さまざまな出来事を経験しています。
その中で、どうにも出来ないことや辛いこと、落ち込んでしまうこともあると思います。
そんなときの心の支えの１つが、「自分の好きなこと」ではないでしょうか。
乳児クラスでは、大人と一緒にさまざまな初めてのことを経験することで、「好き」の基盤を築いていきます。
幼児クラスになると、自分の「好き」を子ども自身が深めていくようになります。
もし何か難しいことに直面しても、自分が「好き」で打ち込めることがあれば、それが「頑張ろう！」という支えになって乗り越えていけるのではないかと感じています。
ここで大切なのは、大人が全て手助けするのでなく、あくまでも脇役としてそっとサポートすることです。
さりげない声掛けやアドバイスで、子どもの探求心がさらに育まれ、自信にもつながり「また挑戦しよう」とする力になってくれることでしょう。
　ご家庭では子どもの「やってみたい」を、都合によって叶えてあげられないこともあるかもしれません。
そうした場合は「今度の日曜日にやろうね」「明日、必要な物を買ってこようか」など、具体的に説明（約束）すると、子どもも安心して楽しみを先に伸ばせます。
　これからも、ご家庭と園で一緒に子どもの成長をバックアップしていきましょう。　（皆川）